



TITLE:

京大広報 号外

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

---

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 号外. 京大広報 1998, 9804g2: 497-506

ISSUE DATE:

1998-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209200>

RIGHT:



# 京大広報

号外

1998. 4

## 目次

### 〈入学式〉

学部入学式における総長のことば .....498

大学院入学式における総長のことば .....500

### 〈大学の動き〉

平成10年度学部入学式 .....502

平成10年度大学院入学式 .....502

名誉教授称号授与式 .....503

平成10年度入学者選抜学力試験の結果 .....505

### 〈医療技術短期大学部の動き〉

平成10年度医療技術短期大学部入学式 .....506

平成10年度医療技術短期大学部入学者  
選抜試験の結果 .....506





## 入学式

### 学部入学式における総長のことば

平成10年4月10日  
総長 長 尾 真

新入生諸君入学おめでとうございます。本日ここに新入学者2,948名、3年次編入学者53名、再入学者1名、合計3,002名の若さにあふれた諸君を迎えることは、京都大学にとって大変喜ばしいことです。本日ここにご列席の元総長、名誉教授の先生方及び各学部長の先生方とともに、皆さんに「京都大学入学おめでとう」と申し上げます。京都大学入学は、長年にわたる諸君の研鑽の結果であり、新しい人生への第一歩であります。この入学式は諸君にとって喜びであるとともに、これからの学問の世界へ向かっての決心の時であります。

難しい試験を突破して入学した諸君は、多くの知識を持ち、難しい問題を解く能力を備えていることは間違いありません。しかし、諸君はまだそういった知識を学問の体系という立場からしっかりと学んだわけではありません。学問はある分野の知識を一定の原理によって説明し、体系化するとともに、体系化するための理論的方法論を明らかにするものがあります。

学問をすることによって、一見何の関係もないと思われる事柄が、奥深いところではつながっているということが明らかになることがよくあります。学問をすることによって、ある事柄がいろんな角度から深く理解でき、他の事柄との相互関係が明らかになるといった形で、新しい知識を創造し、またこれまでの知識を体系化し、誰もがよく理解できるようにするところに、学問の価値、すばらしさ、そして面白さがあるのであります。学問を学び、物事を学問的にながめ、解釈することによって物事がよりよく理解でき、その結果、新しい物事を創造することができるようになるという楽しさは、学問をするものにとっての堪らない魅力であります。

そういった意味で、大学には面白いことがいっぱいあります。二、三、例をあげてみましょう。京都大学は日本ザルの野外研究から出発して、「サル学」という学問を確立し、世界における霊長類研究の中心的存在として活躍してきておりますが、人類は霊長類の最も発展した段階のものとして、サルからどのような経過をたどって来たかということは、諸君にとっても大いに興味のあることでしょう。京都大学の理学部や霊長類研究所でそういった研究を精力

的に行っており、諸君の疑問に答えてくれるでしょう。

サルから人間へということになれば、人間の脳は猿やチンパンジーの脳とどのように違っているのだろうか、といった疑問もでてくるでしょう。今日、この問題を解明しようとして世界中の科学者が協力して「脳科学研究」を進めております。京都大学でも、医学・生理学だけでなく、心理学・認知科学・情報科学・哲学といった非常に広い学問領域において、種々の角度から脳に関する研究を行っています。

宇宙のことについても興味の深いことは沢山あります。最近の天文学の精緻な観測から得られるデータを矛盾なく解釈しようとする、百数十億年前にビッグバンと呼ばれている宇宙の始めがあったという仮説が導かれますが、それは本当にあったことなののでしょうか。またこれから何百億年先に宇宙はどうなっているのでしょうか。疑問はとめどなく浮かび上がって来ます。これらの問題についても、天文学・宇宙物理学の先生方が探求を続けておられます。

邪馬台国論争というのがあることは皆さんもよくご存知でしょう。女王卑弥呼が支配していた邪馬台国は九州にあったのか、近畿にあったのかという論争であります。考古学の発掘調査の技術は、過去30年ないし40年の間に目ざましい進歩をとげ、今日の発掘調査はあらゆる先端科学技術を用いたものとなっております。非常に多くのことが分かって来ております。それでも、この邪馬台国論争に決着がつく様子はありません。諸君のうちの誰かが、この分野の研究者となって解決してくれることを期待します。日本で最初に設置された京都大学の考古学教室の研究グループは長い伝統を持ち、多くの秀れた考古学研究者を出して来ており、日本の考古学の発展に多大の寄与をしているのであります。

法律や経済の分野でもすばらしい研究が行われていますし、諸君に学問の仕方をよく教えてくれます。たとえば国家とは何だろうか、日本とは何だろうか、といった問題を考えてみるのもよいでしょう。国家については古代ギリシャのプラトンから始まって、マキャベリ、カント、ヘーゲルなど、多くの人が種々の立場から国家とは何かを論じています。このような哲学的系譜だけでなく、法律学的立場からは国際法上の国家とは何か明らかにされていますし、国家が政治学の中心的課題であることは言うまでもありません。このような理論体系的な立場でなくとも、たとえば国家と民族との関係、国家と言語・文化との関係、あるいは国際貿易・国際経済と



いう観点からの国家や、もっと日常的なこととして、交通や情報通信が発達し、誰でもどこにでも行け、また誰とでも自由にコミュニケーションができる状況における国家という概念の持つ意味など、時代とともに実に様々な立場から国家ということについて考えることができるのであり、また研究が行われているのであります。

大学においては、高等学校までの勉強のように、ある問題に対する解答は唯一つ正しいものがあるといったことではありません。いろんな立場からいろんな解答があり得て、それぞれにその妥当性が存在するといった世界を学びます。また場合によっては解答がないと思われる問題についても考えます。上に述べてきました多くの興味ある質問・疑問に対しては現在のところ確たる答えがなく、それだからこそ多くの研究者が日夜研究に励んでいるのです。諸君もいろいろと勉強し、また研究することによって、多くの問題に対して自分として納得のゆく答えを得ることができるようになるでしょう。

そういった意味でも諸君はいろんなことに興味をもち、疑問を持つということが大切なのであります。その疑問は簡単に解決を与えられるようなものではないでしょう。そこで、先生に聞いたり、自分で解決すべく学問を学んだりすることが必要となります。そしてなんといっても、考えるということが必要なのであります。また、たとえ答えを先生から聞いたとしても、その答えの意味が理解できないことがあります。答えを理解するためにまた勉強をしなければならない場合もあるのです。すなわち、問題の解決は一足飛びには出来ません。難しい問題の場合にはステップを踏んで勉強を積み重ねてゆくことが必要となります。学問に王道なしであります。諸君の四年間の大学生活はそういった難しい課題に解決を与えるための基礎となる学問を幅広く学び、積み重ねてゆく時なのです。

このように学問・研究は長い道のりを要します。そして諸君は辛抱をしながら基本的な学問をしっかりと身につけ、将来に備える必要があるのです。その間も、諸君が持った、いつかは解決したい、理解したいという疑問・課題を忘れず、あきらめず、それを持ち続けることが必要なのです。そうすればいつかはきっとその解決に到達できると思います。

大学で学ぶこととしては、社会に出て職業についた時に必要となる専門知識だけでなく、人生をいかに生きるべきかという、よりよき人間となるための

学問もこの四年間に身につけることが大切です。多くの場合、この人間性を豊かにする学問の方が、専門の学問知識よりも長い一生にとっては重要であるかもしれません。人間的な素養は自分から求めてゆかねば学べないものであります。

京都大学ではこのような教養教育のための科目を全学共通科目として用意し、諸君が自由に選べるようにしています。本年度の入学生諸君には特にポケットゼミと呼んでおります少人数のセミナーを用意し、数名ないし十名の学生諸君に対して教官を一人ずつ配し、その先生の最も得意とする内容を自分の経験をまじえて教えます。こうすることによって学生諸君が本当に身近に先生と対することができ、諸君のもつ疑問も先生に直接聞いてもらったりすることができるという科目であります。このセミナーを通じて学問とは何か、研究とは何かということを諸君によりよく理解してもらい、学問に対する興味をかきたて、四年間の勉学をより効果のあるものにしてもらいたいという意図をもって始められるものであります。ぜひこのセミナーを受講し、大学とは、学問とは、ということについて考えてください。

さて、京都大学は自由の学風を持っていると言われており、我々もそう思い、そこに自信と誇りをもっております。そして新入生諸君も、その学風にあこがれて本学に入学されたものと思います。諸君は学生の間に多くの学問を自由に選択して学ぶことができます。そして、自分の関心のある学問分野を徹底的に追求することができます。ですから、諸君は京都大学への入学に際して、自分はこの四年間に何を学び何をしようとしているかという目的をはっきりさせていただきたいと思います。そうすれば、それはこの四年間できっと達成できるでしょう。目標を高くもってください。大学は入学をすればもうそれでよい、あとは何とかなるだろう、卒業すれば適当なところに就職できるだろうといった安易な考え方は、これからの厳しい社会では通用しなくなります。そのような考え方では、諸君の貴重な四年間の青春時代は何のためだったかと後悔することになるでしょう。大学は自分が学ぼうという意志を持てば、いくらでも学べる場所であり、学ぼうとする意志を持たない学生にとっては、自由の学風といっても何の意味も持ちません。大学の四年間は諸君の人生の基礎を与えるものであり、これからの長い一生に比べるとほんの一瞬ですが、非常に大切な期間なのであります。ぜひ大切にしてください。

京都大学の学風のもう一つのものは、事実に即して真理を探究するという態度でありましょう。学問の仕方としては大きくわけて二つの立場・考え方があります。その一つはユークリッドの幾何学のように、まず公理系といった基本的、原理的なことをおき、そこから世の中のいろんなことを説明してゆこうとする態度であり、もう一つは世の中の事実を徹底的に観察・調査し、そこから学問体系を築きあげてゆこうとする立場であります。前者がプラトンの、あるいはフランスなどの大陸ヨーロッパ的な学問態度であるとすれば、後者はアリストテレス的考え方、あるいはイギリスの経験主義的学問態度であるといえるでしょう。そして京都大学は後者の、事実を重んじ、そこから真理を発見してゆこうとする態度が強いのであります。先程お話ししましたサル学や考古学などは、いずれも後者の経験主義的立場から大きな成果をあげている研究であります。

このように同じく学問研究をする場合においても、物の考え方によっていろんな方法がありうるのであります。諸君も京都大学で学ぶにつれて、そういった種々のことが分かって来て、学問のおもしろさが味わえると思います。そして、物事に対してはいろんな立場があり、いろんな見方があることを知り、そして自分はその中のどれを採るかを決断できるようになるために、学問を広く深く学ぶことが必要なのであります。どうか、大学へ入ったらもう後には何とかなるといった安易な気持ちでなく、これからいよいよ本格的な学問をし、人格を鍛える時になったのだ、大学の四年間が自分の一生の基礎となり、大学で学ぶことが自分にとっての一生の真の財産となるのだ、という自覚を持って学生生活を送っていただきたいと思います。

これからの四年間が実り豊かなものであることを祈って、諸君へのお祝いの言葉といたします。

## 大学院入学式における総長のことば

平成10年4月10日  
総長 長 尾 真

大学院入学おめでとうございます。ご列席の名誉教授、各研究科長、教職員を代表して皆さんの大学院入学をお祝いいたします。これから二年ないし五年間で良い研究をし、修士・博士の学位を取得されることを期待いたします。

京都大学では研究科の存在するところは全て大学院重点化され、さらに本年度には、アジア・アフリカ地域研究研究科と情報学研究科が発足することになりました。また期間短縮で修士・博士の学位が得られるようにもなりましたから、努力次第で早く学位を得て社会に出てゆくことができます。また、既にご存知のことと思いますが、TA (Teaching Assistant)、RA (Research Assistant) 制度が出来、また、日本学術振興会の奨学生：Post Doctor制度なども充実してきておりますから、しっかりした勉強・研究をする人にとっては生活の援助がいろんな形で受けられます。こういった制度をうまく利用し、学問研究に専心してくださるようお願いいたします。

大学院には将来の研究者を目指す人と高度の専門知識を持った職業人として社会に出てゆく人と

がいますが、いずれの方向を目指す人も研究をし、論文を書いて大学院を修了することになります。したがって、今日は研究を行うときの考え方、態度について少し述べたいと思います。

まず皆さんは肉体的にも精神的にも若いのでありますから、既存の考え方、既存の学問体系にこだわらず、自由な発想で研究をしていただきたいと思えます。全てのことについて疑いの目を向けることが必要です。たとえば、あるテーマについて研究しようとして、これまでにこのテーマに関してどのような研究が行われてきたかを調査すべく、文献検索をしたとしましょう。その結果、1件も該当するものがなかったということがよくあります。この時多くの人は、これはだめだ、このテーマはほとんど誰も研究していない大してよくないテーマだと思うようですが、私はそうは思いません。これは、誰も過去に研究したことのない新しいテーマを自分が見つけたということであり、これは大変貴重なことであると考えなのです。つまり検索をして何も出てこなかったということは、ある文献を入手したということよりもはるかに大切な情報なのであります。また何件か文献が見つかったとしても、それを調べた結果、それらの研究における条件、周囲環境が自分が想定しているものと全く異なっているということを発見することもよくあります。それらの文献には明確に



は書かれていないが、背後に存在する種々の条件や仮定・制約といったことを見抜く力を持つことも必要であります。他人の論文を表面的にだけ理解してはなりません。

画期的な論文を書いた人には出来るだけ会うよう努力することも大切です。いろいろと話し合うことが出来ればベストですが、学会などの際に顔を見るだけでも価値があります。こうして、その人の人柄、物の考え方などを直接・間接に知る努力をします。そうすれば、その人が今後どんなアイデアでどんな方向の研究をし、どんな論文を書くだらうかということが推測できるでしょう。その場合、最も注意しなければならないことは、その道の権威、その道の大学者の言うことを全て真にうけてはならないということであり、そういう人の言われることで自分が納得出来ないことについてはそれを鵜呑みにせず、大いに疑い、よく考えることが必要です。権威のある人の言うことが常に全て正しいということはありません。それを信じてしまって間違った方向へ行ってしまうということのないように注意が必要です。自分が納得できないことは疑い、よく考える必要があるのです。

研究をしたら論文を書くことが当然要求されます。論文が多いことは良いことですが、これからは論文の数よりは質が重視されるようになってゆくでしょう。論文の質の評価は非常に難しいのですが、程度の低い論文は誰にでも判定することができます。質の余り高くない論文を数多く出す人はすぐ分かり、あまり高く評価されなくなってしまうでしょう。そうでなくても読まねばならない論文は多いのですから、本当に価値のある論文でなければ、読んだ人に無駄な時間を費やさせたということになり、迷惑をかけたことになるのです。そういったことも考える必要があります。かといって、現代のように競争の激しい社会においては、たえず論文を出すということも必要であります。数年に一度しか論文を出さない人でも、その論文の内容が抜群に優れていればよいのですが、論文の良さが注目されないという悲劇も起こります。どこでバランスを取るかは難しいところでもあります。

いずれにせよ大学院では皆さんはほとんど一人前の研究者とみなされますし、博士後期課程の学生は明らかに一人前の研究者であります。我々教官は皆さんを共同研究者として議論をし、協力して未知の領域を切り開いて行こうとしているのであります。

したがって、皆さんは自信とプライドを持ち、しっかりした研究をし、得られた成果については、どのような大先生の前でも自信を持って堂々と説明をし、相手に理解してもらえるよう努力してください。日本の研究者の中には、良い研究成果を得ていても他人の前では遠慮してうまく説明をしなかったりする人が多くいますが、それはよくありません。自分が信念を持って研究したことなのですから、怖めず臆せず堂々と相手に理解してもらうようにすべきであります。もちろん、相手が興味を持ってよく聞いて理解してくれるよう、発表の方法には細心の注意をし、工夫をすべきことは当然であります。

さて皆さんは語学の方はどうでしょうか。皆さんは、将来研究者になろうとする場合も、社会人として活躍しようとする場合も、英語を始めとして、外国語の知識を身につけることは欠かすことができません。社会は益々グローバル化され、あらゆる活動は国境をほとんど意識せずに、自由に世界を相手に行われるようになってゆきます。そういった時に英語は国際語としての機能をますます高めてゆきますから、これからの社会をリードしてゆくべき皆さんは英語で自分の考えていることを書き、また話し、いろんな人達とコミュニケーションを十分に行う能力をもつことが必要であります。皆さんの研究成果は出来れば英語で論文にし、英語で発表してもらいたいと思います。これは自然科学系の学問だけではありません。人文社会系の学問についても言えることであります。たとえ日本文学・日本歴史といった日本固有の分野の研究においても、今日では諸外国との比較の上で研究をしなければなりませんし、また諸外国の人たちで日本の固有文化に関心をもち研究をする人たちも増えて来ているからであります。まして法律や経済などの分野では、外国との関係を視野に入れねば研究が成り立たないでしょう。語学は才能というよりは息の長い実践によって上達するものでありますから、毎日少しずつ2年、3年と根気よく語学の勉強を続けることが必要で、そうすれば自然に上手になります。そういった意味では語学は難しい対象ではないと気持を楽に持って、要するに続けてゆけばよいのです。

最後に、皆さんの大学院における研究が大きな成果をあげ、社会に対して貢献することを期待し、私のお祝いの言葉といたします。

## 大学の動き

### 平成10年度学部入学式

4月10日（金）午前10時から、平成10年度学部入学式が、名誉教授をはじめ来賓出席のもとに、本学総合体育館において挙行された。

入学式は、京都大学交響楽団による式典曲奏楽、京都大学合唱団による学歌斉唱に続いて、「総長のことば」があり、午前10時40分に終了した。

今年度の新入生数は、次のとおりである。



学部	募集人員	一 入 学 者	一般 学 者 の た め の 選 考 に よ る 入 学 者	計	外国人留学生			第3学年 編入学者	再 入 学 者	計	合 計
					国費	私費	計				
総合人間学部	130	135		135	1		1	4		4	140
文 学 部	220	224		224	2		2	4	1	5	231
教 育 学 部	60	62		62	1		1	5		5	68
法 学 部	390	379	17	396	1		1	22		22	419
経 済 学 部	240	237	5	242	3	8	11	11		11	264
理 学 部	326	326		326	2		2				328
医 学 部	100	102		102							102
薬 学 部	80	84		84		3	3				87
工 学 部	1,030	1,032		1,032	1	8	9	7		7	1,048
農 学 部	310	315		315							315
合 計	2,886	2,896	22	2,918	11	19	30	53	1	54	3,002

### 平成10年度大学院入学式

4月10日（金）午後3時から、平成10年度大学院入学式が、名誉教授をはじめ来賓出席のもとに、本学総合体育館において挙行された。

入学式は、京都大学交響楽団による式典曲奏楽、京都大学合唱団による学歌斉唱に続いて、「総長のことば」があり、午後3時30分に終了した。

今年度の新入生数は、次のとおりである。





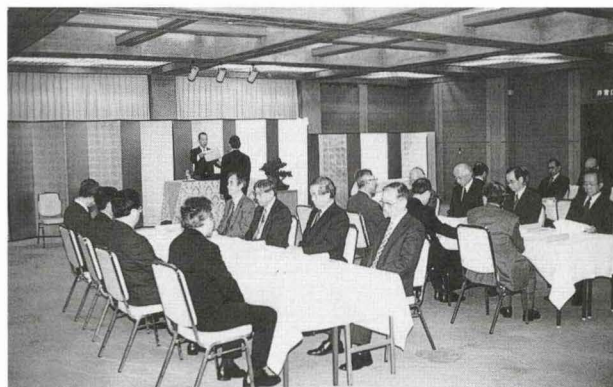
研究科	修士課程				博士後期課程									
	入学者	外国人留学生		合計	編入学者	外国人留学生		再入学者	小計	進学者	外国人留学生		小計	合計
		国費	私費			国費	私費				国費	私費		
文学研究科	人 96	人 3	人 7	人 106	人 10	人 3	人 3		人 16	人 59	人 2	人 4	人 65	人 81
教育学研究科	33	1	3	37	3				3	19	1	1	21	24
法学研究科	44	3	5	52	1			2	3	12	1	2	15	18
経済学研究科	44	6	23	73	3	4	1		8	30	4	7	41	49
理学研究科	270	5	1	276	26	4	3		33	158	2	1	161	194
薬学研究科	79	2		81	5				5	23		1	24	29
工学研究科	600	6	8	614	34	1	6		41	61	5	4	70	111
農学研究科	263	5	3	271	8	8	6		22	77	3	3	83	105
人間・環境学 研究科	126	3	9	138	14	3	1		18	45	1		46	64
エネルギー 科学研究科	116		4	120	8	2	2		12	13			13	25
合 計	1,671	34	63	1,768	112	25	22	2	161	497	19	23	539	700

研究科	博士課程				
	入学者	外国人留学生		転入学者	合 計
		国費	私費		
医学研究科	人 141	人 5	人 10	人 2	人 158

## 名誉教授称号授与式

4月6日（月）午前10時30分から、名誉教授称号授与式が、京大会館において挙行された。授与式は、部局長の出席のもとに行われ、称号授与のあと、「総長のあいさつ」があり、午前11時10分終了した。

称号を授与された方は、次の37名である。





(敬称略)

(氏 名)	(推 薦 部 局)
小 橋 澄 治	(大 学 院 農 学 研 究 科)
服 部 春 彦	(大 学 院 文 学 研 究 科)
谷 嘉 明	(生体医療工学研究センター)
長谷川 利 治	(大 学 院 工 学 研 究 科)
毛 利 明 博	(総 合 人 間 学 部)
高 橋 正 治	(胸 部 疾 患 研 究 所)
森 健次郎	(大 学 院 医 学 研 究 科)
西 原 英 晃	(原 子 炉 実 験 所)
藤 谷 築 次	(大 学 院 農 学 研 究 科)
山 口 巖	(大 学 院 人 間 ・ 環 境 学 研 究 科)
武 部 啓	(大 学 院 医 学 研 究 科)
曾 我 直 弘	(大 学 院 工 学 研 究 科)
高 村 泰 雄	(大 学 院 人 間 ・ 環 境 学 研 究 科)
石 原 茂 久	(木 質 科 学 研 究 所)
武 内 章	(総 合 人 間 学 部)
渡 邊 晃	(防 災 研 究 所)
秋 葉 知 温	(総 合 人 間 学 部)
内 藤 道 雄	(総 合 人 間 学 部)
政 池 明	(大 学 院 理 学 研 究 科)

(氏 名)	(推 薦 部 局)
鬼 頭 誠	(食 糧 科 学 研 究 所)
飛鳥井 雅 道	(人 文 科 学 研 究 所)
山 岸 秀 夫	(大 学 院 理 学 研 究 科)
小 田 順 一	(化 学 研 究 所)
谷 口 安 平	(大 学 院 法 学 研 究 科)
六反田 收	(総 合 人 間 学 部)
加 藤 正 二	(大 学 院 理 学 研 究 科)
乾 智 行	(大 学 院 工 学 研 究 科)
万 波 通 彦	(大 学 院 工 学 研 究 科)
野 澤 正 徳	(大 学 院 経 済 学 研 究 科)
木 村 淳	(大 学 院 医 学 研 究 科)
山 本 雅 英	(大 学 院 工 学 研 究 科)
水 垣 涉	(大 学 院 文 学 研 究 科)
大 矢 勇次郎	(大 学 院 工 学 研 究 科)
眞 崎 知 生	(大 学 院 医 学 研 究 科)
安 藤 仁 介	(大 学 院 法 学 研 究 科)
長谷川 高 士	(大 学 院 農 学 研 究 科)
藤 原 悌 三	(防 災 研 究 所)

## 平成10年度入学者選抜学力試験の結果

平成10年度入学者選抜学力試験（第2次学力検査）の前期日程試験は2月25日（水）・26日（木）に、後期日程試験は3月13日（金）・14日（土）に実施した。

学部別の受験者数、合格者数及び入学者数等は次表のとおりである。

学 部	(A) 募集人員	(B) 志願者数	(C) 倍率 (B/A)	(D) 第1段階選 抜合格者数	(E) 受験者数	(F) 倍率 (E/A)	(G) 欠席者数	(H) 欠 席 率 (%)	(I) 合格者数	(J) 追加合 格者数	(K) 入学者数
総 合 人 間	130人	人		人	人		人		人	人	人
前 期	文系	55	211	3.8	204	201	3.7	3	1.5	57	
理系	55	190	3.5	186	183	3.3	3	1.6	57		135
後 期	20	364	18.2	320	192	9.6	128	40.0	21		
文 学 部	220										
前 期	190	655	3.4	654	646	3.4	8	1.2	193		224
後 期	30	374	12.5	293	152	5.1	141	48.1	32		
教 育 学 部	60										
前 期	40	220	5.5	157	156	3.9	1	0.6	42		62
後 期	20	161	8.1	138	98	4.9	40	29.0	20		
法 学 部	370										
前 期	332	970	2.9	970	959	2.9	11	1.1	335		379
後 期	38	574	15.1	483	192	5.1	291	60.2	44		
経 済 学 部	230										
前 期	一般	160	548	3.4	546	540	3.4	6	1.1	160	
期 論文	50	295	5.9	251	245	4.9	6	2.4	50		237
後 期	20	397	19.9	397	224	11.2	173	43.6	30		
理 学 部	326									2	
前 期	294	963	3.3	932	925	3.1	7	0.8	294		326
後 期	32	1,201	37.5	1,173	743	23.2	430	36.7	32		
医 学 部	100										
前 期	90	493	5.5	409	400	4.4	9	2.2	91		102
後 期	10	263	26.3	151	83	8.3	68	45.0	12		
薬 学 部	80										
前 期	70	215	3.1	215	208	3.0	7	3.3	72		84
後 期	10	136	13.6	136	91	9.1	45	33.1	12		
工 学 部	1,030									2	
前 期	922	2,478	2.7	2,474	2,442	2.6	32	1.3	922		1,032
後 期	108	1,306	12.1	1,303	673	6.2	630	48.3	111		
農 学 部	310										
前 期	248	889	3.6	889	868	3.5	21	2.4	255		315
後 期	62	902	14.5	902	558	9.0	344	38.1	62		
小 前 期	2,506	8,127	3.2	7,887	7,773	3.1	114	1.4	2,528		
計 後 期	350	5,678	16.2	5,296	3,006	8.6	2,290	43.2	376		
計	2,856	13,805	4.8	13,183	10,779	3.8	2,404	18.2	2,904	4	2,896

（注） 受験者数・欠席率は最終教科のものである。



## 〔外国学校出身者のための選考の実施結果〕

学 部	(A) 募集人員	(B) 志願者数	(C) 倍率 (B/A)	(D) 第1次選考 合格者数	(E) 受験者数	(F) 倍率 (E/A)	(G) 欠席者数	(H) 欠席率 (%)	(I) 合格者数	(K) 入学者数
法 学 部	20以内人	64人	3.2	44人	32人	1.6	12人	27.3	17人	17人
経 済 学 部	10以内	38	3.8	20	19	1.9	1	5.3	6	5



## 医療技術短期大学部の動き

## 平成10年度医療技術短期大学部入学式

4月7日（火）午前10時から、平成10年度医療技術短期大学部入学式が、名誉教授をはじめ来賓の出席のもとに、本短期大学部講堂において挙行された。

入学式は、学長式辞、来賓祝辞があり、午前10時30分終了した。

今年度の新入生数は、看護学科80名、衛生技術学科40名、理学療法学科20名、作業療法学科20名、助産学特別専攻20名の計180名である。



## 平成10年度医療技術短期大学部入学者選抜試験の結果

医療技術短期大学部では、平成10年度入学者選抜試験を3月2日（月）、3月3日（火）に実施し、その合格者氏名を3月12日（木）に発表した。

受験者数および合格者数等は次のとおりである。

学 科	募 集 人 員	志 願 者 数	受 験 者 数	合 格 者 数
看 護 学 科	80人	225人	185人	106人
衛 生 技 術 学 科	40	387	327	65
理 学 療 法 学 科	20	258	228	29
作 業 療 法 学 科	20	240	196	25
計	160	1,110	936	225